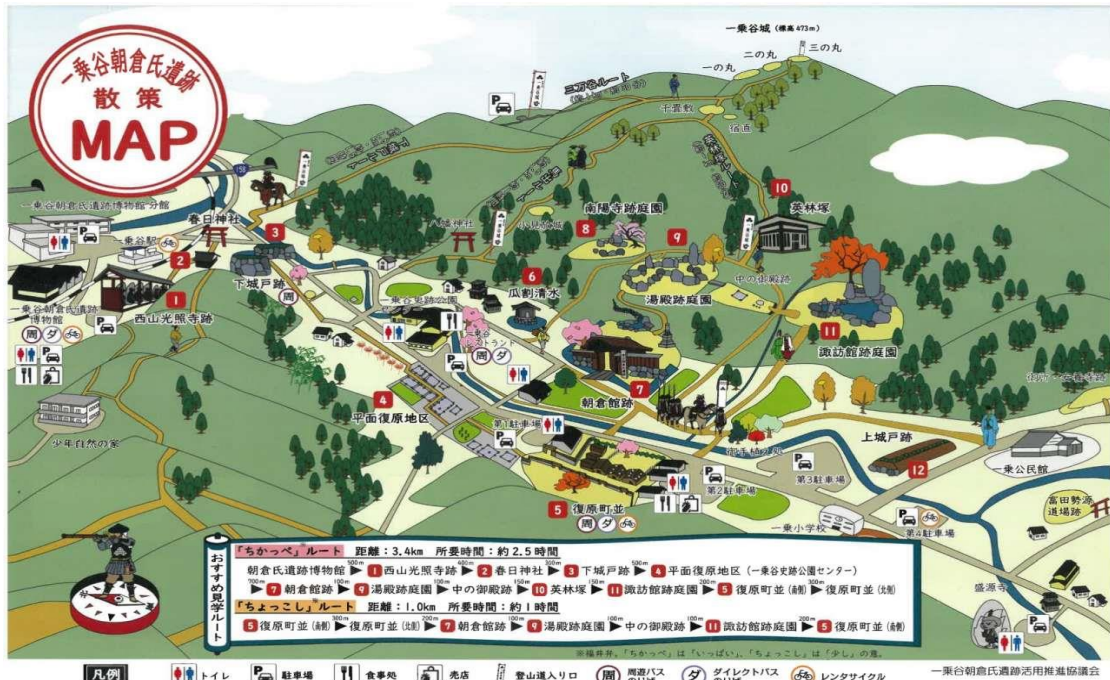


北庄城跡(柴田神社)と一乗谷朝倉氏遺跡を巡る旅

2024.12.6

○見学コース ==> 徒歩 ——> タクシー

福井駅西口 ==> 北庄城(柴田神社) ——> 西光寺 ——> 朝倉氏遺跡博物館 ——> 西山光
照寺跡 ==> 下城戸跡 ==> 平面復原地区 ==> 南陽寺跡庭園 ==> 朝倉義景館跡 ==
> 湯殿跡庭園 ==> 中の御殿跡 ==> 英林塚 ==> 諏訪館跡庭園 ==> 復原町並み
——> 福井城跡 ==> 福井駅西口



○柴田勝家と北庄城(柴田神社)

天正 11 年(1583)、対立した豊臣秀吉の軍に攻められ自ら城に火を放ち、妻で織田信長の妹のお市や一族とともに壮絶な最後を遂げる。現在、北庄城の跡には柴田神社が建ち、柴田勝家公とその妻お市の方を御祀りしている。境内には、柴田勝家公、お市の方、そしてお市の娘三人の柴田勝家は織田信長から 49 万石を与えられ、数年の歳月をかけて居城である北庄城を築城。姫の像があり、併設する北の庄城址資料館では、北庄城の遺物や鬼瓦、勝家の時代に造られた半石半木の奇矯「九十九橋」に使われたという石柱、九頭竜川に掛けられた舟橋をつないだ鉄鎖などが保存されている。柴田勝家・お市の墓所もここから徒歩圏内(約 1km)にある西光寺にある。



柴田神社

柴田勝家像



お市の方像

お市の娘三人の姫像



北庄城の石垣跡

勝家資料館

○西光寺 柴田勝家・お市の方墓所



一乗谷朝倉氏遺跡の概要

当遺跡は、戦国時代の城下町全体が遺跡となって残された全国でもまれな大規模遺跡です。昭和 46 年に 278ha が国の特別史跡に指定され、以来、50 年以上にわたり、発掘調査と整備が続けられてきました。また、平成 3 年には遺跡内の 4 つの庭園が国の特別名勝となり、さらに平成 19 年には、遺跡からの出土品 2,343 点が国の重要文化財に指定されました。朝倉当主の館跡をはじめ、武家屋敷や道路などの町並を復原した地区、上・下城戸跡、石仏群の残る寺院跡、標高 473m の山上に築かれた一乗谷城跡など、谷全体に多くの見どころが点在しています。

●朝倉氏について

朝倉氏は現在の兵庫県養父(やぶ)市出身の豪族で、南北朝時代に朝倉広景が主人の斯波高経(しばたかつね)に従って越前に入国しました。朝倉孝景の代、1467 年の応仁の乱での活躍をきっかけに一乗谷に本拠地を移し、斯波氏、甲斐(かい)氏を追放して越前国(えちぜんのくに)を平定しました。以後孝景(たかかげ)、氏景(うじかげ)、貞景(さだかげ)、孝景(たかかげ)、義景(よしかげ)と 5 代 103 年間にわたって越前国の中心として繁栄し、この間、京都や奈良の貴族・僧侶などの文化人が訪れ、北陸の小京都とも呼ばれました。しかし天下統一の戦いの中で 1573 年織田信長に敗れ、朝倉氏は滅び、城下町も焼き尽くされました。

○朝倉氏遺跡博物館

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は、戦国城下町の繁栄をいきいきと伝えるこれらの出土品を展示し、発掘調査で明らかになった学術成果を公開するために、昭和 56 年に開館しました。令和 4 年 10 月 1 日、一乗谷朝倉氏遺跡の価値と魅力を発信する拠点として、一乗谷朝倉氏遺跡博物館が開館しました。展示室では、国指定重要文化財を多数含む約 800 点の出土資料を展示しています。また、歴史資料や一乗谷の地形模型・町並復原模型等も展

示し、遺跡と朝倉氏の歴史について紹介しています。



博物館の全容



原寸大に復元された館

●戦国大名朝倉氏が築いた城下町跡

一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国大名朝倉氏が5代 103 年間にわたる越前支配の拠点として計画的に築いた城下町跡です。発掘調査が始まった 1967 年から半世紀以上、調査研究及び史跡整備が続けられています。

1971 年には一乗谷城を含む 278ha が国の特別史跡に、1991 年には諏訪館跡庭園、湯殿跡庭園、朝倉館跡庭園、南陽寺跡庭園の四庭園が特別名勝に、さらに 2007 年には遺跡出土品のうち、2,343 点が重要文化財に指定されました。

○平成7年にオープンした復原町並

約 200 メートルにわたる道路に面して整然と配置された武家屋敷と職人等の町屋からなる町並を、発掘調査で見つかった塀の石垣や建物の礎石をそのまま使用して忠実に復原したものです。また、建物内では、出土遺物から想定される人々の生活の様子を再現しています。

○西山光照寺跡

西山光照寺跡は、一乗谷、下城戸から 600m ほど離れた位置にある寺院跡です。一乗谷朝倉氏遺跡発掘にあたり発掘、石仏覆屋が再建され、多くの石仏が安置されています。



○城戸と一乗谷城

城下町は上・下城戸によって仕切られています。下城戸山裾には、巨石を積んだ枳形の城戸口がみられます。一乗谷城は東方山上にあり、竪堀に防御されて、千畳敷、観音屋敷、宿直(とのい)などの御殿群と、一ノ丸などの曲輪群があります。



●4つの特別名勝・庭園群

一乗谷には、室町時代末期の庭園の様式をよく伝える多くの庭園があります。朝倉館跡庭園は完全に埋没していたもので、建物との関係がよく分かります。湯殿跡(ゆどのあと)庭園の林立した立石群には戦国武将の気迫が感じられます。諏訪館跡(すわやかたあと)庭園は最も規模の大きい豪壮華麗な庭園で、秋の紅葉も見事です。

○朝倉館跡庭園(特別名勝)

特別名勝4庭園の中では、一番最後に発掘調査が行われました。この庭園は、当時完全に土の中に埋もれており、発掘調査により約 450 年ぶりに発見されたものです。池の底には、平らな石が美しく敷き詰められており、池の護岸は、出入りが多く、大小さまざまな庭石で構成されています。



○湯殿跡庭園(特別名勝)

湯殿跡(ゆどのあと)庭園は、朝倉館跡を見下ろす高台にあります。残念ながら、湯殿跡に関する古文書などの文献が全く残っていないので、いつ頃、誰が建て、誰が住み、当時はどのようなたたずまいだったのかは全くわかりません。湯殿跡庭園は、戦国時代の気風を漂わせる、荒々しく勇壮な石組みが特徴です。4 つある特別名勝朝倉氏庭園の中で、一番古いものではないかと考えられています。芸術家の故岡本太郎氏が当地を訪れた際、庭園に感動し、長時間、鑑賞していたそうです。



●日本でも第一級の豪華さを誇る諏訪館跡庭園(特別名勝)

諏訪館跡(すわやかたあと)庭園は、4つの庭園の中で最も大きく、上段と下段で構成されています。諏訪館は、5代義景が最愛の妻「小少将(こしょうしょう)」のためにつくったと伝えられています。湯殿跡庭園に比べて、低く丸みを帯びた石が多く、女性らしい雰囲気を感じられます。



後の足利幕府 15代將軍義昭をもてなした南陽寺跡庭園(特別名勝)

朝倉氏の子女が入る尼寺で、永禄11年(1568)3月、後の15代將軍足利義昭をもてなし、境内の糸桜を眺めながら、歌会を催したと伝えられています。庭園の構成に朝倉館跡庭園や諏訪館跡庭園との類似点が見られ、同時期につくられたと考えられます。



○朝倉館跡と館跡庭園

第5代当主朝倉義景が住んだ館の跡で、6,500 m²程の敷地があり三方は土塁(どるい)と濠(ほり)で囲まれています。常御殿(つねごてん)、主殿(しゅでん)、会所(かいしょ)、茶室(ちやしつ)、日本最古の花壇のほか、台所、厩(うまや)、蔵などが整然と配置されていました。東側の山際にある館跡庭園は力強い滝の石組、護岸石組を持ち、その洗練された石組に京都との文化の交流を感じられます。



○復原町並

長年の発掘調査の結果、我が国で初めて戦国時代の城下町の具体例が明らかにされました。一乗谷を縦横に走る道路に沿って、武家屋敷、寺院、商人や職人達の住む町屋などが所狭しと並んでいる様子は壮観です。道は、防御のための矩折(かねおれ)、T字路、行止りなどの工夫がみられます。城下町の建設にあたっては、30m=100 尺を基準にしていたこともわかりました。



復原町並みの発掘前の様子



復原町並み

○復原された武家屋敷

東西 30m、南北 30m の敷地をもつ中規模の武家屋敷を復原しました。発掘では、土塀の二カ所に門を開き、中央に東西 11.3m、南北 7.5m の主屋が、東南隅に一間半四方の茶室、庭園などが発見されました。日常使用される蔵や井戸、便所なども復原されています。この復原武家屋敷は、発掘遺構面に 60cm 土盛りし、当時の材料、工具、技術等を十分に検討して建てられたものです。



○英林塚

英林塚は朝倉孝景（朝倉家第7代当主）の墓所の異名の事で、孝景の法名「英林宗雄大居士」に因んで英林塚と呼ばれるようになりました。



●朝倉孝景

朝倉家の戦国時代における越前支配の基礎を作った人物で、当初は室町幕府三管領の1人斯波氏（越前・尾張・遠江守護）の宿老を努め応仁元年（1467）に勃発した応仁の乱では斯波氏と共に西軍に与し御霊合戦、上京の戦い、相国寺の戦いなどに従軍に功を挙げました。しかし、孝景は功に準じた恩賞が貰えず越前国の守護代になる事が宿願だった為、文明3年（1471）に混乱に乗じ越前に戻ると越前守護代になる事を条件に東軍に与し、当時の越前守護代甲斐氏を排斥し文明7年（1475）に越前国を攻略、手中にしています。孝景は領内の整備にも尽力し「朝倉敏景十七箇条」などを制定しましたが、この行為に激怒した元主家である斯波氏は甲斐氏など引き連れ文明11年（1479）に越前に侵攻し激戦が繰り広げられました（以上の事は資料が少なく疑問視する説もあります）。戦乱の最中、孝景文明13年（1481）に病死、享年54歳、墓碑は室町時代に

建てられたものを江戸時代前期に朝倉家の菩提寺である心月寺18世龍堂が修復したもので笏谷石製、宝篋印塔、高さ約2m、現在は保存の為に覆い屋内部にあり、福井に異変がある前は震えて前兆を教えてくれると伝えられています。

○福井城跡

福井城址は、徳川家康の次男である結城秀康によって築かれた城で、約 270 年間 17 代にわたり越前松平家の繁栄の舞台となった名城です。現在は石垣と堀が残っており、美しい景観を彩っています。観光スポットには結城秀康騎馬像、天守台跡、福の井、御廊下橋などがあります。



○御廊下橋

福井城本丸の西側に架かっている橋です。

過去藩主は御座所と呼ばれる現在の福井市中央公園にあった居住施設に住んでいたもので、この橋を渡って登城していました。

現在の橋は、明治初期の写真をもとに復元されたもので、全国的にも珍しい屋根付きの橋となっています。



○山里口御門

「廊下橋御門」や「天守台下門」とも呼ばれていた福井城本丸の西側を守る枡形門です。

江戸初期から本丸の西につながる西二の丸には松林があり、山里丸と呼ばれていました。

山里口御門は、この山里丸から本丸への入口の門として、築城当時に造られました。寛文 9 年 (1669) の大火で天守などとともに焼失しますが、その後再建されました。

2 階部分に櫓 (長屋状の建物) が載る櫓門 (やぐらもん)、2 本の柱とその上部を連結する冠木 (か

ぶき)で屋根を支える構造の棟門(むなもん)、そしてこれら 2 つの門とともに枡形を形成する石垣上の土塀を復元しました。



○結城秀康像

本丸跡に福井城初代藩主結城秀康の騎馬像が建てられている
秀康が越前に入国して 400 年を記念して翌年平成 14 年に建立された。
龍泉寺所蔵の秀康の肖像画をモデルにしている。



◎おまけ

○一乗谷城

領主館の背後にある山城「一乗谷城」(標高 473m)までは徒歩約 1 時間。一乗谷山城の登山ルートは、馬出ルート・下城戸ルート・三万谷ルート、英林塚ルートの 4 ルートがあり、無難なコースは「馬出ルート」で約 1.5km (徒歩約 1 時間) で山頂の山城に至る。



以上